

第4章 食育推進の目標

1 基本目標

本市の将来像

人と自然が輝く 食彩豊かなまち

市民一人ひとりが、生涯にわたって心身ともに健康で豊かな人間形成をはぐくむとともに、食を通じた地場産業の振興を図ることにより、本市の将来像である「人と自然が輝く 食彩豊かなまち」の実現を図るため、次のとおり基本目標を定めます。

基本目標 1

健全な食生活の実践を通して、心身の健康増進を目指します

市民一人ひとりが、食に関する正しい知識や的確な判断力を身につけ、適度な運動、規則正しい食習慣と栄養バランスのとれた健全な食生活を実践することにより、心身の健康増進を目指します。

基本目標 2

食を楽しむ心と食への感謝の心をはぐくみ、豊かな人間形成を目指します

家族や友人などと会話をしながら楽しく食事をすることや一緒に料理を作ることを通して、食を楽しむ心をはぐくみます。また、食べ物が私たちの口に入るまでには、自然の恵みや生産者をはじめとする多くの人々の苦労や努力があることを理解し、食に関する感謝の心をはぐくむことにより、豊かな人間形成を目指します。

基本目標 3

食を通して、人と自然が輝く活力あるまちを目指します

地産地消を推進し、本市の農林水産業及び食品関連産業の活性化を図るとともに、地域の食材をはぐくむ自然環境の保全や、食文化の継承などを通して、人と自然が輝く活力あるまちを目指します。

2 食育に関する5つの視点

食育推進の基本目標を実現するため、食育に関する5つの視点を設定します。

視点1 食を通じた健康づくりの推進

市民一人ひとりが、家庭や地域、病院などにおいて、食や健康に関する正しい知識を身につけ、適度な運動と健全な食生活を実践することにより、自分自身や家族の生活習慣病や歯科疾患などを予防し、心身の健康づくりを推進します。

視点2 五感を使ってすこやかな心身をはぐくむ食育の推進

食を通じたコミュニケーションは、食の楽しさを実感させ、精神的な豊かさを醸成することにもつながることから、家族や友人などと一緒に楽しく食卓を囲む機会や料理を作る機会の増加・充実に取り組みます。また、作物を育て、調理して食べるなどの体験を通して食べる楽しさを実感する食育を推進します。

視点3 気仙沼市の風土にはぐくまれた食材・食文化の理解

本市の豊富な食材について理解を深め、地域に根ざした食文化や郷土料理を再認識し、次世代に伝えるとともに、地産地消などを通して食と環境との調和に関心を高める取組を推進します。

視点4 食の安全・安心の推進

健全な食生活は、食品の安全性が確保され、安心して消費できることが基礎であることから、生産者と消費者の信頼関係を構築する「顔の見える関係づくり」を推進するとともに、市民が自らの判断で安全・安心な食品を適切に選択できるよう、情報提供に努めます。併せて、環境を考えた生活を推進します。

視点5 市民運動による食育の推進

市民一人ひとりが主体となり、家庭や地域、保育所(園)、幼稚園、学校等で、それぞれの役割に応じた取組や、連携・協力した取組が行われるよう、市民運動として食育を展開します。

3 目標値

食育の推進，基本目標の達成に関する状況を，客観的な指標により把握するため，視点ごとに主要な項目について，定量的な目標値を設定します。

視点1 食を通じた健康づくりを推進するための目標

項目	現況値	目標値 (平成32年)	出典	
朝食を欠食する中学生の割合	4.4%	2%以下	市「食育アンケート」(平成27年)	
3食とも主食・主菜・副菜のそろった食事を食べている割合	51.1%	60%以上	市「食育アンケート」(平成27年)	
メタボリックシンドローム該当者及び予備群の割合	28.4%	23%以下	市「特定健診・特定保健指導法定報告」(平成26年度)	
薄味を心がけている割合	64.1%	70%以上	市「3歳児健康診査」(平成26年度)	
むし歯のない子ども の割合	3歳児	65.6%	70%以上	市「歯科健診統計」(平成26年度)
	小学生	41.5%	50%以上	市「疾病異常等の被患者数調査」 (平成26年度)
	中学生	35.1%	40%以上	市「疾病異常等の被患者数調査」 (平成26年度)

視点2 五感を使ってすこやかな心身をはぐくむ食育を推進するための目標

項目	現況値	目標値 (平成32年)	出典
家族と一緒に料理を作る児童生徒の割合	68.7%	75%以上	市「食育アンケート」(平成27年)
クッキング体験事業の増加 (保育所(園)・児童館)	68回	84回以上	市「食育関連事業報告」(平成26年度)

視点3 気仙沼市の風土にはぐくまれた食材・食文化を理解するための目標

項目	現況値	目標値 (平成32年)	出典
週3回以上魚を食べる割合	41.9%	60%以上	市「食育アンケート」(平成27年)
学校給食における地場産物(野菜・いも類・果物・きのこ類)の利用品目数の割合	18.8%	28%以上	県「地場産物活用状況調査」(平成26年度)
「地産地消」という言葉も意味も知っている割合	79.5%	90%以上	市「食育アンケート」(平成27年)
「スローフード」という言葉も意味も知っている割合	44.6%	60%以上	市「食育アンケート」(平成27年)

視点4 食の安全・安心を推進するための目標

項目	現況値	目標値 (平成32年)	出典
国産や地元産の食材を意識して購入する割合	79.4%	83%以上	市「食育アンケート」(平成27年)
1人1日当たりごみ排出量	982g	933g以下	市「一般廃棄物処理基本計画」

視点5 市民運動による食育を推進するための目標

項目	現況値	目標値 (平成32年)	出典
「食育」という言葉や意味も知っている割合	63.8%	70%以上	市「食育アンケート」(平成27年)
食育の推進ボランティアによる食生活改善普及数(食生活改善推進員の活動)	10,071人	増加へ	市「食生活改善推進員協議会総会資料」(平成26年度)